

ふれあいコラム

今、話題の人物をクローズアップ!

[>> バックナンバー](#)

作家

すずき こうじ

鈴木 光司さん



代表作である『リング』が日本だけではなくハリウッドでも映画化された作家の鈴木光司さん。ベストファーザー賞を受賞されるなど、二人のお嬢さんを育てた父親としての顔も広く知られています。鈴木さんが「子育ての原点」と語る、高輪児童館でお話をうかがいました。

子育てをするなんて考えもしなかった

学生時代は太宰治のような作家生活に憧れていたという鈴木さん。教師である夫人をサポートするために“子育てパパ”になったご自分を、「ラッキーだった」と振り返ります。「朝9時に子供を保育園に送ってから、夕方5時に迎えに行くまでが、僕の仕事の時間。子供が帰ってきたら、仕事はしないで家族と過ごすという生活を、丸10年間続けました。育児と家事から色々なことを発見できましたよ」

今もそのライフスタイルはほとんど変わらず、「仕事の時間を2時間くらい増やしたけど、原稿を書く量が増えたわけではない」そうです。

今も続いている保育園仲間とお付き合い

お子さんが保育園に通われていた当時、他のご家族と、家族ぐるみのお付き合いも楽しまれていたそうです。「保育園仲間と計画して、20~30人でキャンプに行ったりしました。保育園を利用するのは、ほとんどが共働きの家庭。その分夫婦が助け合うし、父親が育児に参加することも多いんです。だから、何かするときにはいつも父親が一緒でしたね」

お子さんの卒園から10年が経ち、保育園仲間が各地に散らばってしまった現在も、子供の卒業式などの節目には集まって、にぎやかに過ごされるとのこと。これだけ長く交際が続く秘訣は、「楽しいから」の一言に尽きるそうです。

親の趣味に巻き込んで、子供の世界を広げる

クルーザーやバイクなど、乗り物が大好きという鈴木さんに巻き込まれ、鈴木家では夫人をはじめ、お子さんも小型船舶免許取得に熱心だとか。「子供を親の趣味に巻き込むんです。子供の趣味に合わせても、親は楽しくないし、子供に付き合っただけという意識が生まれてしまいます。たとえば、囲碁が趣味なら碁会所へ子供を連れて行

■プロフィール

1957年静岡県生まれ。1990年、『楽園』で第2回日本ファンタジーノベル大賞優秀賞を受賞しデビュー。1991年刊行の『リング』がベストセラーに。その続編『らせん』で1996年に吉川英治文学新人賞を受賞。2人の娘を子育てした体験から、政府の諮問機関「少子化への対応を推進する国民会議」や東京都青少年協議会の委員も務める。主な著書に『光射す海』『仄暗い水の底から』『シーズ ザ デイ』『家族の絆』など。

く。そうすると父親は楽しいから、子供といることが楽しくなる。子供は子供で、学校とは違う世界に触れることで、世界が広がるんです」

お子さんからミュージカル鑑賞やツーリングなどをせがまれるという鈴木さんは、「子供からは信頼できて楽しい兄貴分だと思われるんじゃないかな」とおっしゃいます。家族が時間と楽しみを共有する鈴木家は、いちばん居心地の良い空間なのだそうです。

オヤジの背中を見ても子供は育たない

「家庭の崩壊が進んでいるなんて言うのは間違い。今の若い父親は、昔よりずっと良くコミュニケーションがとれていますよ。もっと自信を持って良いと思う」と語る鈴木さん。家父長制は過去のものになり、女性の社会進出、男性の育児参加が確実に根付いてきています。両親が仕事と家庭を両立し、子供と向き合うことが、家族が成長するために欠かせないのでしょう。「頭ごなしに結論を言っても子供は納得しないし、不信感を持たれてしまう。うちでは互いが納得するまで、子供ととことん議論する。大人のほうが経験も知識も圧倒的に深いんだから、子供が色々なことにチャレンジできるように、的確なアドバイスをしなくちゃね」

作家・鈴木光司の第一のファンであるご家族に囲まれて、エネルギーに満ちた鈴木さん。次回作もますます楽しみです。

[▲このページのトップへ](#)

| [個人情報保護について \[PDF\]](#) |

Kissポート財団 

(公益財団法人 港区スポーツふれあい文化健康財団)

港区赤坂4-18-13赤坂コミュニティーぷらざ

電話:03-5770-6837/Fax:03-5770-6884

お問い合わせ: fureai-info@kissport.or.jp

[⇒ Kissポート財団について](#)



このホームページはKissポート財団の公式ホームページです。このホームページのすべての権利は当財団に帰属します。当財団の許可なく複製、転載は出来ません。